

近隣住民と防災訓練

賃貸マンションやアパートの入居者は、地域とのかかわりが少ないのが現状だが、交流を模索する動きがある。

徳島市の賃貸マンション「フォルム福永Ⅱ」(4階建て)は、一戸建て住宅と賃貸住宅が混在する地域にある。ここで7月上旬、地域住民も参加した防災訓練が行われた。



「地震です。避難してください」と、ジャンパー姿の人たちが玄関ドアをたたき、入居している一人暮らしの大学生や社会人に知らせた。入居者たちは部屋を出て、1階のピロティに下り、近隣住民と一緒に、消火器を使って訓練。消防署員から、火事などの二次災害を防ぐ方法も教わった。



「防災会を作ることは、すぐに入居者の理解を得られました」と木村代表(左から2人目、徳島市の「フォルム福永Ⅱ」)で

万が一の災害の時にも協力しやすい」と話す。

訓練を主催したのは、徳島県内の不動産会社13社で作る「アパ・NET徳島」。代表の木村正美さんは「賃貸住宅の入居者は、防災という面

でも「日頃から交流があれば、万が一の災害の時にも協力しやすい」と話す。

訓練を主催したのは、徳島県内の不動産会社13社で作る「アパ・NET徳島」。代表の木村正美さんは「賃貸住宅の入居者は、防災という面

孤立防ぎ 協力関係作る試み

地域から孤立している」と指摘する。今回は、「フォルム福永Ⅱ」のオーナーと入居者の了解を得て、入居者による防災会を組織してもらい、訓練を実施。別のオーナーからも訓練実施の依頼が来ているという。

京都市上京区の成逸地区では、賃貸住宅の入居者たちに、町内会に加入してもらう取り組みを進めている。

ワンルームマンションなどの増加に伴い、加入率が減って運営が難しくなっているため、3年前にまちづくりのルールを策定。新築の賃貸マンションなどでは、入居者に町内会の会員や準会員になってもらうことにした。すでに、ワンルーム3棟の約60世帯が準会員になった。今後は既存の賃貸住宅の入居者にも協力を要請する。

ただ、必ずしも交流は順調とはいかないようだ。

地域のことを知ってもらおうと、地域住民との交流会も6回開いてきた。しかし、賃貸住宅から参加するのは、毎回2、3人程度なのが悩みの種だ。町内会などで作る成逸住民福祉協議会の副会長、川田雄司さんは「なかなか参加してもらえないが、交流の機会を設け続けることが地域の役目だ」と話す。

富士常葉大学教授の重川希志依さん(防災コミュニティ論)は「地域の人とつながりを持っていなければ、災害時に安否を気遣ってくれないということも起こりうる。賃貸住宅の入居者も、地域コミュニティの大切さを知っておくべきだ」と話す。

賃貸住宅の入居者同士で深まりつつある、ご近所さんづきあい。一歩踏み出して、地域住民との間にも広げるには、入居者の意識改革が必要だ。(西内高志)

くらし 家庭